

アートマイル 海外交流 評価シート

■基本情報について教えてください。

学校名 [兵庫県 赤穂市 Sherry's 英語教室] 担当教諭 [塩飽 隆子]			
児童生徒の学年・参加人数 (複数学年であれば学年別に): [中学1年 7名] [2年 6名] [3年 9名] 計22名			
実施期間: 2006年4月～2007年2月			
交流相手: 国名 [シリア] 学校名 [パレスチナ難民キャンプ内 UNRWA の Al-malkiah 校と Mansura 校]			
学年 [中学1・2・3年] 担当教諭 [サラーム、ルーラ]			
実施教科・時数 (関連させたものをすべて)	教科	単元名	時数
	英語	「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へ パレスチナ難民と壁画共同制作で 異文化理解	45

■主な活動の流れを教えてください。

時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科
4月	(1) 日本の文化を伝える ・日本の伝統行事をまとめた ファイルとビデオレターを 送る	生徒たちは日頃からテレビ会議で日本の文化を海外に伝える活動を行っているので、的確に日本の文化をファイルにまとめることができた。ビデオレターは作成したばかりのものがあつたのでそれを送った。 生徒たちがこれまで交流してきた相手は先進国が中心だったが、今回は想像もつかないシリアのパレスチナ難民との交流ということで、相手の子どもたちがどういう思いで自分たちの送ったものを見るのだろうか、不安と期待をもって反応を待った。	英語
5月	(2) シリア・パレスチナ難民について学ぶ ・「シリアとパレスチナ難民の話」を聞く会 ・相手から届いたビデオレターを見る	現地をよく知る関西大学の学生さんに来てもらい、パレスチナ難民キャンプの話聞いた。また、シリア側でサポートしてくれている JICA シリアの海外協力隊員が撮ってくれたキャンプで暮らす生徒のビデオを見た。聞くこと、見るもの、全てが予想外のことであり、驚きの連続であった。想像では豊かな日本で暮らす自分たちとは全く違う生活をしていると思ったのに、キャンプといっても普通の街で、子どもたちの生活も自分たちとあまり変わらないことを知って逆ショック！知らない世界を知ることの面白さにドキドキした。	
6月	(3) 学びのイメージマップ ・パレスチナのことを学ぶ前と後のイメージの変化を絵で表現	学びの前と後での印象の変化は、イメージマップに端的に表れている。「銃・地雷→サッカー・バスケットボール」「テント→アパート」「食糧不足→豊かな食料」と大きくイメージが変わった。	
4-6月	(4) 双方向の交流でお互いのことを知る ・電子掲示板 BBS	生徒は積極的にBBSへの書き込みやテレビ会議に取り組んだ。メールを打つのが得意な子、テレビ会議で話すのが得意な子、それぞれ得意なところで活躍した。交流相手との距離	

	・テレビ会議	もテレビ会議の会を重ねる事に縮まっていき、次第に書いた英語を読むのではなく、本音で将来のことを話し合ったりするようになったのは大きな成果だ。
7月	(5)絵のテーマ・下絵の協議 ・BBS ・テレビ会議	クラスで生徒たちが案を出し合った後は、教師同士がテレビ会議をして両方の案をまとめた。
8月	(6)シリア側の絵の制作 ・絵を描いているところの実況生中継（テレビ会議）	シリア側のスタッフがノートPCをワイヤレスでネットにつなぎ、絵を制作しているところを実況中継してくれた。
	(7)もっと相手を知る ・「中東の話聞く会」	シリアが絵を描いている間に、こちらの生徒の絵を描く意欲を高めておこうと、2回目の話を聞く会を設けた。今回は日本に住むイラン人から中東やアラブの世界の話を聞いた。
9月	(8)相手の絵の鑑賞会 ・BBS 交流	シリア側が描いた絵が来た。「すご〜い！」感想を書き、BBSで伝えた。
	(9)下絵の再構築	相手の絵にこちらの絵が自然に繋がるように下絵を再構築。
10月	(10)日本側の絵の制作 ・関西大学より研究調査	いよいよ本塗り。相手の生徒から教えてもらったことを基に「シリアらしく！」にこだわって、真剣に描いた。関西大学から国際交流学習の研究調査に来て、アンケートを採る。
11月	(11)展示 ・教室で展示 ・関西大学で展示	11月、関西大学で開催された日本教育工学会全国大会で、シリアとの交流プロジェクトに参加した全ての学校の作品と共に展示。
12月	(12)壁画完成後も続く交流 ・ニューイヤーカード交換 ・BBS ・テレビ会議	せっかく築いた絆を深めようと、壁画完成後も交流を続けた。特にカードは、相手への親しみを込めて書いて、楽しい活動となった。BBSの書き込みとテレビ会議は、相手側のインターネット環境が不安定になったため、最後の方はうまくできなかつたのは残念だった。
1月	(13)活動の振り返りとまとめ ・インターネット活用教育実践コンクールの審査用ビデオ制作	文部科学省主催インターネット活用教育実践コンクールの第1次審査に受かったことで、第2次審査用の活動のドキュメンタリービデオを作成してくれることになった。幸いにもこれが最高の振り返りとまとめになった。生徒は1年間の活動を振り返り、その意味と成果を確認することができた。

■設定した学習目標と得られた成果について教えてください。(空欄箇所は先生が設定した目標をご記入下さい)

(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:まったく関連がなかった)

つきたい力・指導目標	実感	手だて	評価方法
英語を使う力 (読む・書く・聞く・話す)	5	BBSやテレビ会議で、英語で自分のことを伝え、 英語で相手のことを学ぶ	観察・自己評価
コミュニケーション力	5	テレビ会議で双方向で意見のやり取り	観察・自己評価
ICT 活用能力	5	BBS・テレビ会議・ビデオレター	観察・自己評価
学習を追究する意欲	5	アンケート	アンケート評価
人と関わる力	5	生徒同士の関わり、外部の人との関わり	観察
自文化の理解	5	日本の伝統文化をまとめたファイルとビデオレター	観察・自己評価 制作物から評価
異文化の理解	5	イメージマップ 壁画で相手の国の様子を描く	イメージマップ アンケート評価
協同作業をする力	5	壁画共同制作・ドキュメンタリービデオ収録	観察
個々の能力を発揮	5	BBS・テレビ会議・壁画制作の各場面	観察
学んだことを表現する力	5	イメージマップと壁画	作品から評価

■今回の取り組みの成果と課題はズバリどういった点でしょうか？

成果	課題
<p>評価がオール5になった。そんなことあり得ないだろうと何回も自分に問うたが、4をつけられない。それくらい生徒が意欲的に取り組み、一人ひとりが成長した。これまでもこの教室では国際交流を積み重ねてきたが、今回はパレスチナ難民キャンプの子どもたちとの交流ということで、知らない世界を知ることの醍醐味を味わった。また、学んだことを題材に壁画を共同制作することに大きな意味があることを実感した。つまりインプットしたものを、自分の中で練り、自分のものにして、伝えたいものを抽出してアウトプットする。そうして一人ひとりから出てきたものを合わせて一つのものを創り上げる。その結果は目に見える形で残り、しかも世界の人に見てもらえる。自分たちの作品が2010年にピラミッドを取り囲むという夢が、生徒の学びの動機付けとなり、意欲をかき立てたことは言うまでもない。さらにインターネット活用教育実践コンクール(文部科学省主催)で「朝日新聞社賞」まで頂いたというおまけ付き。最高の成果を出せた。</p>	<p>シリア・パレスチナ難民との交流という前代未聞のこのプロジェクトは、大学や国連機関との連携で実現し、生徒たちにとって意義深い学びとなった。しかし、普通の学校が普通に組み入れる活動でないと、広く子どもたちがその大きな教育効果を楽しめない。今回の実践を基に授業カリキュラムを作成し、どこの学校でもこのような絵を通じた国際交流・異文化理解ができるようにする必要があると思う。</p>